

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	グローバル・アカデミー			
○保護者評価実施期間	R8年1月6日		～	R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32人	(回答者数)	22人
○従業者評価実施期間	R8年1月6日		～	R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月31日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育内容に応じて3つの部屋を柔軟に使い分けることで、個別の集中環境と集団活動の場を適切に両立させ、環境の構造化を徹底している。また玄関に水槽を設置するなど、子供が安心感を得られる空間づくりに努めている。	スペースを物理的に分けるだけでなく、視覚支援等を用いて子供が「今何をすべきか」を理解しやすい環境を整えている。また、生き物の飼育を通じて登所時の不安を軽減し、スムーズな活動への移行を促す情緒的サポートを実践している。	子供の成長段階や個別の特性変化に合わせて、構造化の質をさらに高めるための備品整理やレイアウト変更を継続的に実施する。また、季節感のある装飾をさらに充実させ、子供たちがより愛着を持って過ごせる拠点作りを推進する。
2	消防署と連携した救命救急講習の受講や、日々のヒヤリハット事例を全スタッフで即座に共有・分析する体制を構築している。事故防止に向けた具体的な改善策を全員で検討し、高い危機管理意識を常に組織全体で維持している。	グループLINE等を活用し、些細な気づきも全職員がリアルタイムで把握できる仕組みを運用している。訓練においても消防署等の専門機関と連携し、机上の知識だけでなく実践的な対応力を養うための研修を定期的に組み込んでいる。	事故防止マニュアルを現状の活動実態に合わせて随時更新し、防犯や感染症対策など多角的なリスク管理能力を強化する内部研修を定例化する。全職員が迅速かつ的確に判断できる体制を構築し、安全・安心な事業所運営を堅持する。
3	役職を問わず全スタッフが支援プログラムの立案に参画し、多様な視点を取り入れている。新規活動導入前の事前シミュレーションや、保護者アンケート結果の迅速な共有により、療育の質の向上と内容の固定化防止を両立させている。	新しい療育教材や活動を取り入れる際は、必ずスタッフ間で予習を行い、子供の反応やリスクを予測した上で提供している。また、定期的な保護者アンケートの自由記述欄についても全職員で目を通し、日々の支援に即座に反映させている。	法人内の他事業所との合同研修や相互見学を次年度より実施し、職員の専門性と支援技術の幅を広げる。また、地域の幼稚園や保育園等との交流機会をさらに創出し、子供たちの社会性向上に向けたプログラムの拡充を積極的に図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在の利用者に車椅子等の使用がないためバリアフリー化が未実施であるが、今後の新規利用者の受け入れや高齢の保護者・来客への対応を考慮すると、物理的な環境整備や情報伝達の配慮において一部改善の余地がある。	現在の利用児童の障害特性において段差等の支障がないため、改修の優先順位が低くなっていた。また、建物の構造上の制約もあり、具体的なバリアフリー化の計画策定や予算確保が後手に回っていたことが主な要因である。	将来的なニーズや急な来客に対応できるよう、入り口への簡易スロープ設置や手すりの整備など、可能な範囲からバリアフリー化を計画的に進める。また、視覚的な情報伝達の工夫などソフト面での配慮も並行して強化する。
2	送迎時間のばらつきや職員の勤務体系の影響により、全スタッフが一堂に会して対面でケース会議や振り返りを行う時間の確保が難しく、情報共有の即時性や議論の深さにおいて物理的な制約が生じることが課題である。	児童の送迎が広範囲かつ多角的な時間に及ぶため、全職員が揃うタイミングが限定されている。日々の申し送りは行っているものの、複雑な支援方針について時間をかけて多職種で協議する機会を十分に作れずにいた。	グループLINEやクラウド型の日誌を活用したデジタルでの情報共有をさらに徹底し、対面会議ができない場合でも情報の質を落とさない仕組みを構築する。短時間でも効率的に協議できる「朝礼・夕礼」の運用を再定義する。
3	保護者向けのアンケート結果から、ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムの実施や、特に年長児の保護者同士が悩みや情報を共有できる交流機会の提供が不足しており、家族支援の充実が求められている。	日々の療育提供や事務作業に追われ、専門的な家族支援プログラムを企画・運営するための体制整備が不十分であった。また、父母の会の活動支援についても、具体的なニーズの掘り起こしが足りていなかった。	保護者の要望を反映し、次年度の事業計画にペアレント・トレーニングの開催や年長児保護者の交流会を具体的に盛り込む。まずは小規模な座談会から開始し、家族の悩みや負担を軽減できる支援体制を段階的に構築する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				回収数		
グローバル・アカデミー		R8年 3月 31日				32	22	
チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	0	0	0	個別、集団の両スペースがあってよい	個別・集団それぞれのニーズに合わせ、スペースの有効活用と環境の構造化を継続して進めます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22	0	0	0	障害特性はそれぞれなので、適切であるかの判断はできないが少なくないと思います。	専門的な支援技術の向上に努め、集団内でも個々が安心して活動できるよう配慮を強化します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	0	0	0	利用する日がくると、とても嬉しそうです	お子様が楽しみにしてくださっていることを励みに、更なる環境整備に努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	0	0	0	本人の力の伸びはすごく感じています が、集団の中での行動が少ない分、まだ不安な部分が多いと感じています。	本人の成長を支えつつ、集団活動への不安を軽減できるよう小集団からのアプローチを工夫します。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22	0	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	0	0	0	多岐にわたる活動を計画していただき楽しみながらたくさんの経験やスキルアップをさせてもらっていると感じています。	新たな取り組みへのご評価に感謝します。今後もマンネリ化を 방지、多様な経験を提供します。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14	2	4	1	あまり認識できていない。アカデミーのお兄さん、お姉さんと一緒に活動する機会あり、楽しめています。直接、園との連携も進んでいます。	異年齢交流の機会を大切にしつつ、地域との繋がりについても具体的に検討を進めてまいります。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	0	0	0	行われているかもしれないが、存じ上げない。あまり参加できていない。いつも丁寧な計画を作っていたらいいと感じています。	計画へのご理解に感謝します。今後も説明の機会を大切にし、丁寧な情報共有に努めます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1	3	1	相談したいこと、悩んでいることをお伝えすると時間をかけてアドバイスをくださいます。	相談への対応をご評価いただき感謝します。今後も寄り添ったアドバイスを継続します。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	22	0	0	0	定期的ではあるが、機会が少ないように思う。送迎時や動画など、とても分かりやすく様子を伝えていただけていて安心	定期的な情報共有に加え、送迎時の対話や動画等での可視化をさらに充実させていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1	0	0	いつもいろいろなアドバイスをいただけてます。	いつでもお気軽にご相談いただける体制を維持し、適切な助言に努めてまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	0	0	0	行われているかもしれないが、存じ上げない。保護者同士の交流はない。きょうだいへの支援もないが、家族への支援が	温かいお言葉をいただき励みになります。今後も親御様に寄り添った支援を最優先します。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	3	5	0	保護者会などはないが、グローバルを利用する兄弟間での交流あり。保護者同士の交流はない。兄弟への支援もないが、家族への支援がないという風には思っていない。	保護者会等の要望を重く受け止め、まずは気軽に参加できる交流の場を検討します。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	0	0	1		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	0	0	0	存じ上げない。SNS等は見れていない。時間外でもご連絡のお返事をくださり配慮が伝わります。	時間外の連絡体制も含め、今後も迅速かつ丁寧な意思疎通を大切にしていきたいと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	1	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1	0	0	救急訓練含め日々の取り組みありがとうございます	安全管理や日々の取り組みへのご理解に感謝し、今後も細心の注意を払って運営します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	1	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	0	0	0	すべてのアクシデントを把握するのは無理だと思う。これからも子どもたちを手厚く見守っていただきたい	手厚い見守りのご要望を受け止め、安全確保を最優先に訓練と支援を継続します。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	0	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	0	0	0	毎回とても楽しみにしています	楽しみにしてくださっていることが私たちの活力です。今後も安心できる場を提供します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	0	0	0	すごく楽しみにしている。送迎時や連絡ノートなど、とてもわかりやすく伝えていただけて安心しています。いつも寄り添ってくださることに感謝しています。	3年間の成長を共に歩ませていただき感謝します。今後もご家庭との連携を大切にします。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	0	0	0	力が非常に伸びた。ありがとうございます。大満足です！！卒園まで残りわずかです。大満足です。「〇〇先生は〜」	大満足とのお言葉をいただき光栄です。最後まで一人ひとりに寄り添った支援を尽くします。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	グローバル・アカデミー				公表日	R8年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		少し狭いと感じることもあるが基本的にスペースを分けて活動している。療育内容に応じて3部屋を分類しながら活用している。	3部屋を分類・活用した構造化を継続しつつ、利用児童の増加に備えて、より効率的な動線やスペースの有効活用を継続して検討する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	配置は基本的にいいと思うが、職員の休みによっては配置がよくないこともある	職員の急な欠勤や有給取得時でも、常に手厚い配置基準を安定して維持できるよう、スタッフ間での業務補完体制をさらに強化する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		バリアフリーは現在利用者がいないため、設置していないが、保護者や来客の時に必要になるかもしれない。利用者の中にバリアフリーを利用する子どもがいない。	現在は対象者がいないため未設置だが、将来的な新規利用者や高齢の保護者・来客を想定し、バリアフリー化の計画を段階的に検討する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		今年度より玄関に昆虫や魚の水槽を設置し子ども達の癒し空間を作成。	水槽等の癒やし空間の管理を徹底しつつ、季節感を取り入れた新たな装飾を加え、子供たちがより愛着を持って過ごせる環境作りを追求する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表の意向を受けスタッフで話して改善につなげている。	保護者アンケートの結果分析をさらに深め、個別の支援計画の目標設定や日々のプログラム改善により迅速かつ具体的に反映させる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		アカデミーとの交流会があればいいと思う。	職員からの改善提案を前向きに吸い上げ、試行錯誤を許容する風通しの良い組織運営を推進し、業務改善の好循環をさらに強固にする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	来年度は法人内で法デイ・時発の交流研修を実施したい。	法人内の合同研修を定例化し、放デイ・児発それぞれの専門的な知見を共有することで、全スタッフの支援技術の向上と平準化を図る。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		少しづつできることが増えていくように付きの予定を決めている	子供の成長の変化をチームでより細かく共有し、ステップアップに合わせた活動内容の難易度設定や目標の微調整をより丁寧に行う。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		初めて行う活動でも事前活動している。所外活動について全スタッフの意見や要望を毎年導入している。	新規活動の事前予習を継続しつつ、他事業所の事例や新しい教材も積極的に導入し、支援内容が固定化しないよう常に更新し続ける。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	できる限り行っているが、送迎の時間にばらつきがあるため、後日行うことがある。次の日に行っている。終了後か次の日の朝に気づいたことなど話共有している。送迎児の保護者との情報は同日	送迎等で全員が集まらない場合でも情報の質を落とさないよう、ICTツールの活用を徹底し、当日の振り返りを即座に共有できる仕組みを定着させる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	投稿支援等は行っているが、教員名との情報共有は行っていない	小学校等との定例的な情報交換の機会や具体的な連携窓口を構築することで、就学後の適応がよりスムーズに進むよう一貫した支援体制を目指す。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	利用者の所属塩酸との交流体験を次年度は実施してみたい。	次年度の地域の園との交流体験を確実に実施し、地域社会の中での子供たちの活動範囲を広げるとともに、インクルージョンへの理解を深める。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5	保護者向けのペアトレは実施したことがないため今後検討する。	保護者ニーズの高いペアレント・トレーニング等の実施に向け、具体的な開催時期や内容の検討を開始し、家族支援の質を一段階引き上げる。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	父母の会活動はしていないが年長児の保護者間の交流の場は必要と思われる。	保護者同士の交流の必要性を重く受け止め、まずは気軽に参加できる小規模な座談会から企画し、保護者間のネットワーク作りを支援する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2	療育内容などを動画にて配信しこどもなどの様子を発信している。	動画配信による療育内容の共有を継続・充実させ、活動の様子をより分かりやすく届けるとともに、保護者との対話を促す工夫を行う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域の様々なイベントに子供たちと参加することができた。	地域住民を招いた行事の開催などを検討し、事業所の活動が地域から正しく理解され、支えられる関係性をさらに強化していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		今年度は消防署の方に来ていただき救命救急の講習を行った。今年度消防士さんに来所していただき、救命訓練を実施。	救急訓練を定例化するとともに、水害や不審者対応など、地域特性や多様なリスクを想定した実践的な訓練メニューをさらに拡充する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットがあった場合全スタッフに周知し改善を話し合っている。	ヒヤリハット報告の即時共有を継続し、発生要因の背後にある環境的要因まで深掘りし、再発防止策が形骸化しないよう徹底検証する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		緊急時の訓練などを行っている	虐待防止研修の頻度を高め、不適切な関わりについても職員間でオープンに議論・自己点検できる風通しの良い研修環境を維持する。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1			